6 分割後期・二次 国語

国語

注意

1 問題は **1** から **5** までで、12ページにわたって印刷してあります。
2 検査時間は**五〇**分で、終わりは**午前九時五〇**分です。
3 声を出して読んではいけません。
4 答えは全て解答用紙に**ＨＢ又はＢの鉛筆**（**シャープペンシルも可**）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
5 答えは**特別の指示**のあるもののほかは、各問の**ア・イ・ウ・エ**のうちから、最も適切なものをそれぞれ**一つずつ**選んで、**その記号の ◯ の中を正確に塗りつぶしなさい。**
6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄から**はみ出さないように書きなさい。**
7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、**その数字の ◯ の中を正確に塗りつぶしなさい。**
9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1 次の各文の――を付けた漢字の読みがなを書け。

(1) 澄んだ青空に白い軌跡を描きながら飛行機が飛ぶ。
(2) 港湾で働く人々の仕事について授業で発表する。
(3) 図書館で地域の歴史について詳しく調べる。
(4) 初夏の風に吹かれて花が揺れる。
(5) 芸術教室で郷土芸能を鑑賞する。

2 次の各文の――を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

(1) 長い年月をかけて海水が結晶化したガンエンを料理に使う。
(2) 新しい製品を開発して、技術者としてのカブが上がる。
(3) 生徒会長としてのキンベンな仕事ぶりが認められる。
(4) 移動教室で訪れた果樹園のナシをお土産にする。
(5) 畑で収穫したエダマメを入れてご飯を炊く。

3 次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。

大学生の暖平（だんぺい）は、父の文彦（ふみひこ）と母の桃子（ももこ）が経営する写真館の手伝いを頼まれ、お世話になった山下（やました）先生がいる小学校の運動会の様子を写真撮影している。

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾
申請中

（喜多川泰「おあとがよろしいようで」による）

〔問1〕(1) 山下先生の言葉がおどしではなく、大変な一日になりそうだというのは、児童たちが入場してくる開会式と、その流れで行われたラジオ体操を終えた時点で感じた。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア　運動会を成功させるために必死になっている山下先生の様子を、先生の言葉を繰り返し情緒的に描くことで表現している。

イ　並々ならぬ緊張感が漂う児童の様子を、開会式からラジオ体操に至る児童全体の動きを躍動的に描くことで表現している。

ウ　撮影の仕事の過酷さを早い段階で予感している暖平の様子を、運動会の開会式とラジオ体操を説明的に描くことで表現している。

エ　滞りなく撮影の仕事を進めようとする暖平の様子を、流れるようなプログラムの進行を象徴的に描くことで表現している。

〔問2〕(2)もう一つ驚いたことは、どの種目についても、どこからどんな写真を撮ろうというプランが自分の中にちゃんとあったことだった。とあるが、暖平が「プランが自分の中にちゃんとあった」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア　何人もの児童から話しかけられ、父は会話しながら撮影していたことを思い出し、自分から児童に声を掛ければよいと気付いたから。

イ　かつて、自分が何気なく見ていた父の写真の構図やカメラマンとしての動きを、無意識のうちに理解し身に付けていたから。

ウ　狙った写真が撮れるように、直観的に移動を繰り返しながらポイントを修正し、いい写真を撮る技術が身に付いていったから。

エ　学校のイベントのたびに、父が撮影に訪れることに反発しており、より洗練された動きを求めて自然に体が動いていたから。

〔問3〕(3)「いや、別に。」とあるが、このときの暖平の気持ちとして最も近いのは、次のうちではどれか。

ア　仕事を頼んでおきながら、何事もないような顔をしている父を見て、礼を言われるまで黙っていようと意地を張る気持ち。

イ　腕も顔も首筋も日焼けで真っ赤になり、疲労が明らかな自分に向かって、お疲れ様と言う母に対して反発している気持ち。

ウ　疲れ切った父が、黙々と次の仕事をする姿を見て、自分は疲れたことをおおげさに主張しないようにしようと配慮する気持ち。

エ　父がしてきた仕事を初めて体験し、激しい疲れを感じて帰宅した自分と違い、疲れを見せない父の姿を見て強がる気持ち。

〔問4〕(4)「ありがとう。」とあるが、このときの暖平の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア　自分が撮った写真の選別を当たり前のように引き受けてくれた父に対する感謝を抱いているが、直接言えない様子。

イ　自分なりにいい写真を撮ってきたつもりではあるが、父のようには売れないことを感謝でごまかそうとする様子。

ウ　自分や姉を育てるために長年大変な仕事を続けている父に対して感謝を抱いているが、素直に言えない様子。

エ　今も自分を大学に行かせるために父は重労働を続けていることを実感し、思わず感謝の言葉を漏らした様子。

〔問5〕(5)「うん。」とあるが、このときの暖平の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア　本当は喜んでいるという父の気持ちは自分も気付いているということを、簡潔に返事をすることで母に伝えようとしている様子。

イ　バイト代を断った自分の気持ちは父も分かっているということを、思い切りよく返事をすることで母に伝えようとしている様子。

ウ　父の気持ちを代弁する母の気持ちは理解しているということを、冷淡に返事をすることで母に気付かせようとしている様子。

エ　父の心情を全て理解している母に感心しているということを、穏やかに返事をすることで母に気付かせようとしている様子。

4 次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（＊印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

（宮下直「ソバとシジミチョウ」（一部改変）による）

〔注〕三圃式農業（さんぽしきのうぎょう）――農地を三分割し、交替させて行う作付け方式。

掲載許諾申請中

〔問1〕(1)その秘密はやはり水中にあるようだ。とあるが、このように筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア　水田稲作で休耕の必要がないのは、水中の微生物の発酵作用により連作障害を引き起こす微生物を死滅させると考えているから。

イ　水田稲作で休耕の必要がないのは、水田がイネの病害を防ぐとともに十分な栄養を与える環境を成立させていると考えているから。

ウ　水田稲作で休耕の必要がないのは、季節風による大量の雨により水の状態を安定させる環境ができていると考えているから。

エ　水田稲作で休耕の必要がないのは、他の作物に比べて農地面積が広く多くの収穫が期待できると考えているから。

〔問2〕(2)その背景に、水田稲作の生産力の高さがあったと考えるのはごく自然である。とあるが、このように筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア　地形の制約により農地は小さいが、複数の水田を所有することで多くの米が収穫でき、経営が成り立つと考えているから。

イ　西欧に比べて機械化が進んでいないので農地は小さいが、イネは少ない栄養で大きく育つため、経営が成り立つと考えているから。

ウ　水田は大量の水を蓄え、その水を生活に利用することができるため、農地が小さくても生活や経営が成り立つと考えているから。

エ　イネは面積当たりの収穫量が多く、同じ場所で繰り返し育てられるので、農地が小さくても生活や経営が成り立つと考えているから。

〔問3〕 この文章の構成における第十段の役割を説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 第九段までに述べた農地の景観について、異なる視点から筆者の経験を示すことで論の展開を図っている。

イ 第九段までに述べた農地の景観について、同じ視点から簡潔に要約することで結論を導き出している。

ウ 第九段までに述べた農地の景観について、多角的な視点から問題点を指摘することで論を分かりやすくしている。

エ 第九段までに述べた農地の景観について、科学的な視点から細かく分析することで異なる意見を紹介している。

〔問4〕 (3)かなりの生物は、ある特定の生態系だけで生活を完結しているわけではなく、複数の生態系を必要としている。とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 多くの生物は、それぞれの種に適した環境で生きているため、多様な生態系があれば多様な生物が生存できるということ。

イ 多くの生物が、農業の近代化により改変された環境に適応するため、新たに生態系を構築しているということ。

ウ 多くの生物は、季節や成長段階などに応じて適した環境が異なるため、多様な生態系を求めているということ。

エ 多くの生物が、狭い範囲でそれぞれに適した生態系を作り上げているため、モザイク性の高い景観が生まれるということ。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「生物の多様性と人間の生活」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、、や。や「などもそれぞれ字数に数えよ。

5　次の**A**は、小野小町（おののこまち）に関する対談の一部であり、**B**は、対談で述べられている掛詞（かけことば）について書かれた文章である。また、**C**は、**A**及び**B**で取り上げられた「古今和歌集（古今集）」にある小野小町の歌の原文であり、［　　］内の文章は、その現代語訳である。これらの文章を読んで、あとの各問に答えよ。（＊印の付いている言葉には、本文のあとに〔**注**〕がある。）

A

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

B

掲載許諾
申請中

（高樹のぶ子、小島ゆかり「小町はどんな女」による）

掲載許諾
申請中

掲載許諾申請中

C

掲載許諾申請中

（菊地靖彦「掛詞・縁語―『古今集』におけるその様相―」による）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

（新編日本古典文学全集による）

〔注〕小説――対談の発言者である髙樹のぶ子の小説「小説小野小町百夜」。

詞書（ことばがき）――和歌の前書きとして、歌の背景を補足的に説明したもの。

縁語――一つの言葉に意味上関係のある複数の言葉を使って歌全体に多義性をもたせる和歌の技巧の一つ。

上代――日本文学の歴史で奈良時代頃までの区分。

淵源（えんげん）――物事の起こり始め。根源。

〔問1〕Aの中の――を付けたア～エの「の」のうち、他と意味・用法の異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

〔問2〕(1) 最後には直接的に詠（よ）んだほうが伝わると、小町なりに学んだんじゃないかなという気がしました。について説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア　奥ゆかしく控えめな歌よりも、晩年は技巧的で豊かな教養があふれる歌の方がより高い評価が得られることを学んだということ。

イ　表現技法の極地に到達したが、晩年は『古今集』に選ばれるように編纂者の意図に合わせた歌を詠むようになっていったということ。

ウ　気持ちをそのまま詠む歌や作りこんだ技巧的な歌を経て、晩年は感情を率直に表現した方がよいということを学んだということ。

エ　豊かな感情を素直に表現する技法を用いていたが、晩年はパターン化された恋の歌を詠むようになっていったということ。

〔問3〕 **A**では、(2)ただぼんやりわかるのは、多分、掛詞が多用されていくのは、明らかにひらがなの発達したときに、仮名文字が使われたからです。とあり、**B**では、(4)いずれにせよ、そういう芸当は表意文字では絶対に考えられないことではある。とあるが、**A**及び**B**で述べられた、掛詞の特徴について説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 漢字だけではなくひらがなが発達したことにより、ある言葉で次の言葉を引き出す掛詞が盛んに用いられるようになったということ。

イ 表意文字である漢字だけでなく表音文字であるひらがなが発達したことで、一語に複数の意味を持たせる掛詞が発展したということ。

ウ 表意文字である漢字は文字から様々な意味を連想させるが、表音文字であるひらがなは言葉のイメージを固定させるということ。

エ ひらがなの発達により漢字がいくつもの意味を持つようになり、複雑な心情を表現できるようになったということ。

〔問4〕 (3)**小島**さんの発言のこの対談における役割を説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 髙樹さんの発言を受け、話題に取り上げている小野小町に対する自説を展開することで、対談の内容を深めようとしている。

イ 髙樹さんの発言を受け、異なる視点からレトリックに関する具体例を示すことで、話題の転換を図ろうとしている。

ウ 髙樹さんの発言を受け、話題となっている六歌仙のうち一人に絞ることで、新たな論を展開しようとしている。

エ 髙樹さんの発言を受け、六歌仙を論の中心にしようとする主張に反論することで、話題を引き戻そうとしている。

〔問5〕 **C**の中の ═══ を付けた**ア**～**エ**のうち、現代仮名遣いで書いた場合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、記号で答えよ。